造船のまち・玉野市で生まれ、高校まで過ごした。当時は三井造船(現三井E&S)が好況で活気があった古里も今は静まりかえっている。このような状態のまちは全国に少なくない。ただ、それぞれの土地には強みがあり、時代の変化に対応すれば「地域創生」はできる。

カーボンニュートラル(CN、温室効果ガス排出実質ゼロ)や再生可能エネルギーの活用が進む社会を考えると、潜在能力はまだまだある。

電力の流通構造は今後、変化していく。再エネ発電が小規模で分散し、送電ロスを抑えるためにも地産地消で自立した仕組みが当たり前になっていくだろう。

岡山県は晴れの日が多く水は潤沢で、エネルギー源が豊富な地域。発電した電力で高付加価値な事業を生み出すという思考も大切になる。再エネ事業と、名産品や既存事業を融合させた取り組みを進めるべきだ。

富山県では、廃棄物処理で生まれたエネルギーで、フルーツトマトが栽培されている。神戸市の酒造メーカーは、製造工程で二酸化炭素(CO_2)の排出を実質ゼロにした日本酒を販売。米カリフォルニアやチリのワイン業者も脱炭素での製造に乗り出し、英国にはCNのチーズがある。

北海道別海町は、乳牛の排せつ物をバイオマス発電でエネルギーや有機肥料に転換している。取り組みを支援したのが、岡山県に関係の深い三井造船だった。

真庭市では銘建工業を中心とした木質バイオマスの素晴らしい取り組みがある。ただ、ジャージー牛乳やワイン、日本酒、ブドウなど名産品がそろう中、再エネと組み合わせた事例がないのは惜しい。

欧米やアジアの富裕層は環境志向が強く、CNの製品を買ってくれる。彼らは生産地も見に行きたいと望むだろう。瀬戸内海や蒜山高原、倉敷などに「ポジティブ・エナジー・ホテル」を建設し、環境志向の高い層を呼び込む準備が必要だ。

このホテルの事例は、米国で進んでいる建築の工夫や植林などを通じ、CO_2の吸収を排出より多くするという。ノルウェーのホテル「スヴォルト」は、建設から運営、建物の取り壊しまでの全エネルギーを建物自体が生み出す海面に浮かぶホテルだ。

瀬戸内海は潮の満ち引きのエネルギーが活用されていない。例えば、倉敷市児島地区のホテルでは潮の満ち引きはベストなエネルギー源になると思う。

水や電力が豊富で地震の少ない場所は、データセンターや半導体製造工場の立地に向く。岡山は最高のロケーションだ。

ネット金融大手・SBIホールディングス(東京)と台湾メーカーは、日本で半導体工場を建設すると発表した。場所は今後検討するという。岡山にも可能性があるが、どうも人々はのんびりしているように思える。もっと積極的に自らの強みと脱炭素を組み合わせてアピールするべきだ。

◇

倉敷アイビースクエア(倉敷市本町)が7月に行った創立50周年記念事業での講演要旨。

アイビースクエア創立50周年記念事業講演要旨

元マツダ副社長　藤原清志氏

世界へ岡山ブランドを発信することは可能か

再エネと名産品融合を

ふじわら・きよし　玉野市出身。同志社大工学部卒。1982年に東洋工業(現マツダ)に入社し、商品企画ビジネス戦略本部長やパワートレイン開発本部長などを歴任。2018年から副社長。22年6月に退任し、コンサルティングの合同会社「Office FVision(オフィス・エフ・ビジョン)」を立ち上げた。63歳。

ベトコンラーメン倉敷新京のみそラーメン(右)と麺屋大輔の塩ラーメンのチルド商品

ベトコンラーメンの「みそ」
麺屋大輔の「塩」

チルド商品来月発売

飛竜　人気店メニュー再現

製麺地場大手の飛竜(岡山市北区撫川)は9月1日、岡山県内の人気ラーメン店のメニューを再現したチルド商品2種類を発売する。ベトコンラーメン倉敷新京(倉敷市帯高)のみそラーメンと、麺屋大輔(津山市東一宮)の塩ラーメン。いずれも県内のスーパーなどで販売する。

みそラーメンは、白みそと赤みそをベースに、黒ごまを加えたスープと、もっちりした食感の生麺。塩ラーメンのスープは鶏肉、豚肉のエキスと魚介のだしを合わせており、生麺は喉ごしが良い、しっかりとした食感という。いずれも1パック2食入りで希望小売価格は540円。

ベトコンラーメンは2020年5月、火災で閉店したが、システム開発・オーユーシステム(岡山市北区撫川)が事業を引き継ぎ、22年に営業を再開。麺屋大輔は格付け本「ミシュランガイド」に掲載された有名店という。

飛竜は昨年も2店のチルド商品を発売しており、第2弾。半年で計16万パックの販売を目指す。同社は「第1弾はSNS(交流サイト)でも話題になる人気ぶりで、別の味をという要望も寄せられていた。商品を通じて岡山を盛り上げていきたい」としている。

(田村柚乃)

山本英伸
製造責任者

723

メモ　所在地　真庭市西河内(0867(52)0181)▽設立　2002年▽資本金　320万円▽事業内容　酪農、ジェラート製造▽売上高　非公表▽従業員　7人(パート含む)

の英伸さんが09年、乳価低迷の対策として、卸先や生乳を巡る情勢に左右されない自社製品をつくろうと始めた。イタリアでの修業を経て、美作

燃料や資材高騰

組合員支援要望

岡山市に3漁協

ノリ養殖を手がける岡山市内の3漁協は22日、ロシアのウクライナ侵攻などで燃料費や生産資材が高騰しているとして、組合員への支援を求める要望書を岡山市に提出した。

要望した朝日、九蟠、小串の3漁協によると、船の燃料費だけでなく、2、3年ごとに更新するノリ網や、ロープなどが昨年よりも1割以上値上がりしているという。要望書では、経費増は規模拡大の足かせになるだけでなく、規模縮小や廃業の要因にもなりかねないと指摘。組合員の経営継続に向けて「特段の配慮」を求めている。

3漁協の組合長が市役所を訪問。朝日漁協の豊田安彦組合長(76)が要望書を大森雅夫市長に手渡した。大森市長は「窮状は理解しているつもりだ。可能な対応策を考えたい」と話していた。

(高橋由大)

大森市長(右)に要望書を手渡す豊田組合長

統計ファイル

6月耐火物生産
岡山14・2%増

耐火物協会中国四国支部(備前市東片上)がまとめた岡山県内10社10工場の6月の耐火物生産速報によると、総生産量は前月比14・2%増の2万3132トンだった。前年同月比では2・7%減となった。

内訳は、耐火れんがが9400トン、不定形耐火物が1万3732トン。在庫を含む出荷別では、鉄鋼2万2264トン(構成比80・6%)、機械1480トン(5・4%)、輸出1251トン(4・5%)と続いた。